

## 20年後の玉村町の将来像を示せ

町田 むねひろ 議員



と・まち・くらしの未来を紡ぐ交流・連携都市玉村町」としている。

**Q** 都市計画マスタープランにおける将来像は、総合計画よりも具体的に

でなければならぬ。周辺市で商業・工業地域の開発が進められていることを考えると、20年後の将来像を「田園住宅 学園都市 たまむら」とし、周辺地域に勤務する人たちの「住宅地（ベッドタウン）」、県立女子大学を中心とした「教育の町」を目指してはどうか。

**A** 都市建設課長 地区懇談会等の意見を得て、実現に向けて対応していく。県立女子大学や文化センター周辺を、文化の拠点としたい。

**Q** 町の将来像を実現するためには、「線引き」の見直しが必要ではないか。

**A** 町長 第5次総合計画や都市計画マスタープラン、県が策定した玉村都市計画区域マスター

プランなどで示される土地利用の方向性を踏まえ、決めていきたい。

**Q** 集中改革プランでは、平成18〜21年度の間

に、17カ所の公共施設を指定管理者制度に移行する計画だったが、実行されたのは7カ所のみである。なぜ実行しなかったのか。

**A** 町長 取り組みの遅れが原因である。文化センターと図書館は、研究の結果、導入しないこととした。社会体育館や児童館等は、引き続き導入を検討する。



B & G海洋センター

## 公共工事は地元業者優先を

川端 宏和 議員



**Q** 他の地域の道の駅、物産館は人が集まるような環境に立地しているが、当町は果たしてどうか。身の丈にあった施設からまず始めてみては。

**A** 町長 J Aの直売所を引き継いで町の直売所を建設し、農産物を提供していただきたいとのお願いをしている。これらの協議にめどがついたら、今年度中に基本設計に入れるかどうかを見極めたい。

**Q** 保育料や給食費の滞納問題が、解決をみない状況にある。子ども手当から滞納分を徴収可能とする規定が、特別措置法案に盛り込まれた。町としての対応は。

**A** 町長 この仕組みにより徴収等を行うかどうかについては、現在検討中である。今後もまた変更・追加等があるようなので、国や近隣市町村の動向を注視しながら、検討していきたい。

**Q** 三期目に向かって、玉村町をどのような町にしたいのか。

**A** 町長（仮称）高崎・玉村スマートICの開通をにらんだ道の駅づくりを基本としたまちづくりを進めていきたい。子どもたちが住みよい地域は、高齢者にとっても住みやすい地域であると私は信じて、まちづくりを進めたい。

**Q** 町の公共工事は地元業者優先にすべきだ。

**A** 町長 工事規模等によつては、町内業者を含めたJV方式を採用するなど、入札参加の機会確保に努めている。競争性と地元業者育成の両立を図っていききたい。



JA農畜産物直売所 たまむら店

※都市計画マスタープラン  
「市町村の都市計画に関する基本的な方針。おおむね10〜20年後の「目指すべき都市の将来像」を明確に定め、土地利用や道路・公園・施設等の整備方針を示したもの。

※指定管理者制度  
「多様化する住民ニーズに効果的・効率的に対応し、公の施設の管理に民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上・経費の節減を図る」とするもの。

※JV方式：複数の建築業者が一つの建設工事を共同して請け負うこと。

## 小中学校に自然エネルギーの導入を

高橋 茂樹 議員



**Q** 小中学校の夏の暑さ対策、冬の寒さ対策は。教育長 東日本大震災による全国的な電力不足により、節電が新たな課題となっている。現段階では、普通教室にエアコンを設置する計画はないが、決して永久的に設置しないということではない。

**Q** グリーンカーテンなどの暑さ対策を図りつつ、検討を継続していく。

**A** 自然エネルギーの導入を考えているか。

**Q** 教育長 玉村中学校は、身近な環境教育としても有効なことから、太陽光発電設備を導入している。しかし、多額の経費がかかるため、他市町村でも一部で試験的に導入しているのが現状である。近隣市町村の動向を踏まえ、検討したい。

**A** 町の公共交通「たまりん」は、現在3台で運行している。近年の利用者減少は不便さが原因だと思いが、車両を1台増やし、路線を見直す考えはないか。

**Q** 町長 買い物弱者への対策として、新たなバス停の設置やダイヤ改正を行いたい。車両を4台に増やすことも、重要な検討課題と考える。

**A** 東毛広域幹線道路の一部開通地域の今後の土地利用計画を問う。

**Q** 町長 沿線周辺は市街化調整区域に指定されているため、現在策定中の都市計画マスタープランの中で新たな土地利用の方向性を示していく。農業との調和を図りながら計画的な市街地を形成し、産業の発展や地域の活性化に努めたい。

**A** 町長 沿線周辺は市街化調整区域に指定されているため、現在策定中の都市計画マスタープランの中で新たな土地利用の方向性を示していく。農業との調和を図りながら計画的な市街地を形成し、産業の発展や地域の活性化に努めたい。

**Q** 町長 沿線周辺は市街化調整区域に指定されているため、現在策定中の都市計画マスタープランの中で新たな土地利用の方向性を示していく。農業との調和を図りながら計画的な市街地を形成し、産業の発展や地域の活性化に努めたい。

**A** 町長 沿線周辺は市街化調整区域に指定されているため、現在策定中の都市計画マスタープランの中で新たな土地利用の方向性を示していく。農業との調和を図りながら計画的な市街地を形成し、産業の発展や地域の活性化に努めたい。



屋根に太陽光発電設備を設置している玉村中学校

## あの質問はどうなったん?

### 追跡調査

過去に行われた質問や提言が、その後どう取り組まれたかレポートします。

## 緊急情報などを携帯メールで配信するべきではないか

(平成20年3月定例会ほか)

**質問** 緊急災害速報や避難情報を、町民に速やかに知らせる方法として、携帯メールによる情報配信が待たれるところだが、どう検討しているのか。小・中学校では、すでに保護者向けに「子ども安全連絡網」を配信している。

**町長答弁** 災害や避難の情報は、迅速化と確実性が求められている。移動系防災行政無線の整備が整ったので、今後は、ほつとメールやFMたまむら、ホームページ等のさまざまな手段の中から、効率的に住民に伝わるように整備する。

その後

携帯メールによる情報配信は、

現在まだ未整備

